

菊池則隆の墓

菊池則隆は菊池氏の祖です。彼の生涯の詳細については不明な点が多いのですが、九州の行政の中心地であった大宰府（現在の福岡県中西部）に赴任した高官であったと考えられています。1070年、則隆は現在の菊池地方に到着し、宮廷が所有する農地「荘園」を監督することになったようです。則隆は菊池姓を名乗り、のちに菊池川と呼ばれるようになった川沿いに城郭を築き、城下町・隈府の基礎を築きました。

菊池地方は僻地ではありましたが、稲作が盛んな農業地帯でした。則隆はこの肥沃な平野の東部に屋敷を構え、菊池川の交通を支配する戦略的な立地を確保しました。川での交易を独占し、周辺の平野で栽培された作物を売ることによって菊池氏は繁栄し、則隆が築いた屋敷は1300年代後半まで一族の本拠地として使われました。

則隆の墓はこの屋敷の跡地から少し離れたところにあります。現在の墓は1818年に建設されたもので、実際に遺骨が納められているわけではなく、供養塔だと考えられています。